

	1年		2年		3年		4年		卒業要件 (74単位)
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	科目名(単位)	
共通・ゼミ研究	現代社会概説 (2)		演習I (4)		演習II (4)		演習III (4)		
	社会学入門 (2)		臨床の社会学 (2)	社会思想史 (2)	社会学理論 (2)		卒業論文 (4)		
			調査研究法 (4)		インターシッブ (2)	社会調査実習 (4)			
	多文化共生フィールドワーク (2)								
	海外語学演習 (2)								
	海外留学科目【単位は分割認定可】 (16)								
スキル系	コミュニケーション・スキルI (2)	コミュニケーション・スキルII (2)	コンピュータ応用I (2)	コンピュータ応用II (2)	多変量データ解析論 (2)				必修科目 20単位
	社会調査入門 (2)	社会調査論 (2)	データ分析論 (2)	社会統計学 (2)	エスノグラフィー論I (2)				
環境・まちづくり		ボランティア論 (2)	環境社会学 (2)	地域社会学 (2)	ウェルビーイングの社会学I (2)	ウェルビーイングの社会学II (2)			
			市民社会史論 (2)	市民活動各論I (4)		ストレスと健康の社会学 (2)			
共生と福祉			共同性と福祉の社会学 (2)	市民活動各論II (4)					
		現代社会と福祉I (2)	現代社会と福祉II (2)	ソーシャルワーク論I (2)	児童福祉論I (2)	児童福祉論II (2)	医療福祉論 (2)		
心のサポート			社会保障論I (2)	社会保障論II (2)	高齢者福祉論I (2)	高齢者福祉論II (2)			
					障害者福祉論 (2)	就労支援論 (2)			
6領域					ソーシャルワーク論II (2)	ソーシャルワーク論III (2)			
					生活保護と生活支援 (2)	ソーシャルワーク論IV (2)			
教育実践・シナリオ					地域福祉論I (2)	地域福祉論II (2)			
					社会福祉史 (2)				
メディア表現					人間関係論 (2)	コミュニティ心理学 (2)			
					臨床発達援助論 (2)	健康心理学 (2)			
グローバル文化					ライフコースと老いの社会学 (2)	コミュニケーションと自己の社会学 (2)			
					仕事と自由時間の社会学 (2)	教育社会学II (2)			
					生きることの社会学I (2)	生きることの社会学II (2)			
					人間形成論II (2)				
					社会教育論I (2)	社会教育論II (2)			
					死と生の社会学 (2)				
					現代メディア論 (2)	マスコミ特論 (2)	現代メディア特論 (2)		
					現代広告論 (2)	ジャーナリズム論 (2)	イベントプロデュース論 (2)		
						メディア理論 (2)	マルチメディア論 (2)		
						出版メディア技法 (2)	ポピュラー音楽論 (2)		
						映像メディア技法 (2)	音声メディア技法 (2)		
						デジタルメディアデザインI (2)	デジタルメディアデザインII (2)		
						企画創造デザインI (2)	企画創造デザインII (2)		
						文化人類学 (2)	現代スポーツ論 (2)		
						国際理解教育論 (4)	現代ファッション論 (2)		
						身体世界文化論 (2)	宗教文化史 (2)		
						演劇文化論 (2)	現代手話文化 (2)		
						身体表現技法 (2)	観光文化論 (2)	伝承文化 (2)	
						宗教の人類学 (2)	開発の人類学 (2)		
							医療の人類学 (2)		

必修科目

白抜き

社会調査士資格 7科目

(1)カリキュラム構成について

現代社会学部の学びの姿勢は、現代社会とそこに生きる人間をフィールドにして、自分を通して知るという作業を行い、さらにはその作業を通して社会を知るということを行なっていくことを大切にしています。しかも、自分の疑問や悩みを、ただ個人的な問題として見るのではなく、研究という客観的作業を通して、普遍化していくことをめざしています。

現代社会学部では、21世紀に生起する具体的な生活・社会問題、たとえば少子・高齢社会、グローバル化、価値の共存と競争などに対して、的確な分析力とそうした課題への解決能力を養うために、社会学理論を基礎とし、「フィールドワーク」「現場体験」「プレゼンテーション」を教育方法の核とし、実践系の科目群を構成しました。

1年次では、まず現代社会学での学びの導入部として「コミュニケーション力」の養成をめざしています。と同時に、現代社会に生起する諸問題の分析を通して社会学の基礎理論を学びます。

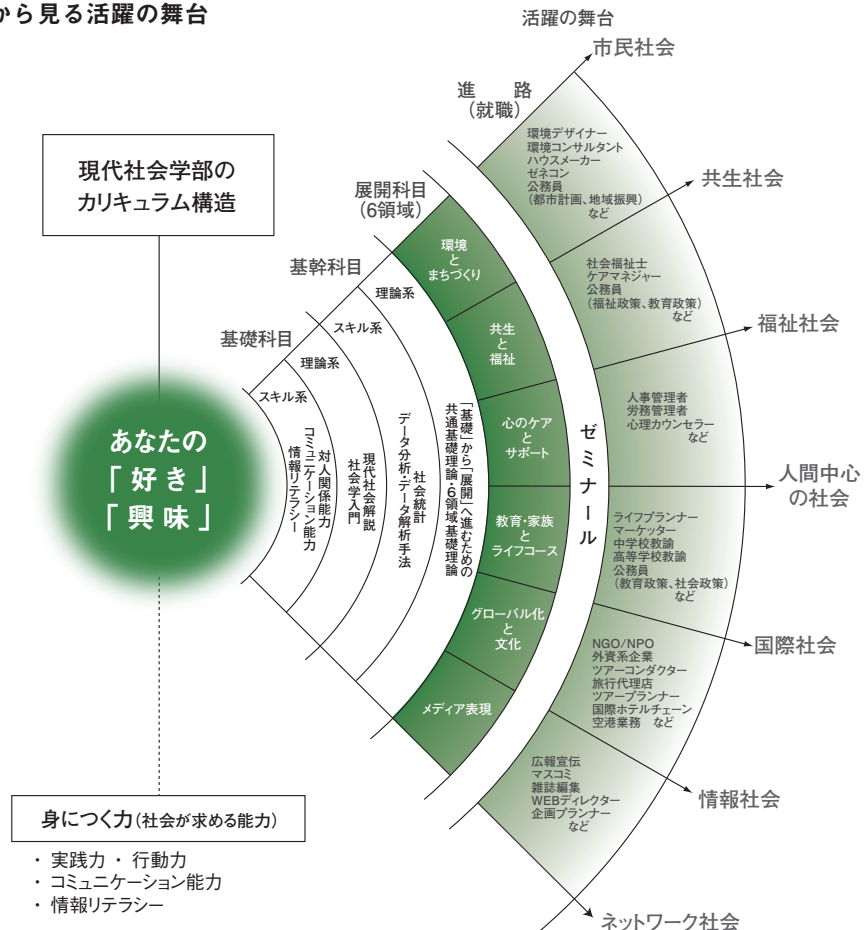
2年次からは、演習（ゼミナール）がはじまります。演習とは、自分の関心に基づいて、少人数での自主学習を意味しています。現代社会学部では、演習という学びを重視しています。2年次から4年次まで、3年間かけて、自らの問題意識によって、「調べ、考え、まとめる」そして「発表し、討議する」ということを繰り返すことによって、問題解決能力を醸成していくことがねらいです。

現代社会学では、先にも述べたように現代社会に生起する諸課題を学部の柱としています。それを示すものが「6つの領域」です。ですから、カリキュラムはこの6領域を柱に構成されています。そして、6領域ごとに、基礎科目、基幹科目と展開科目が用意されています。

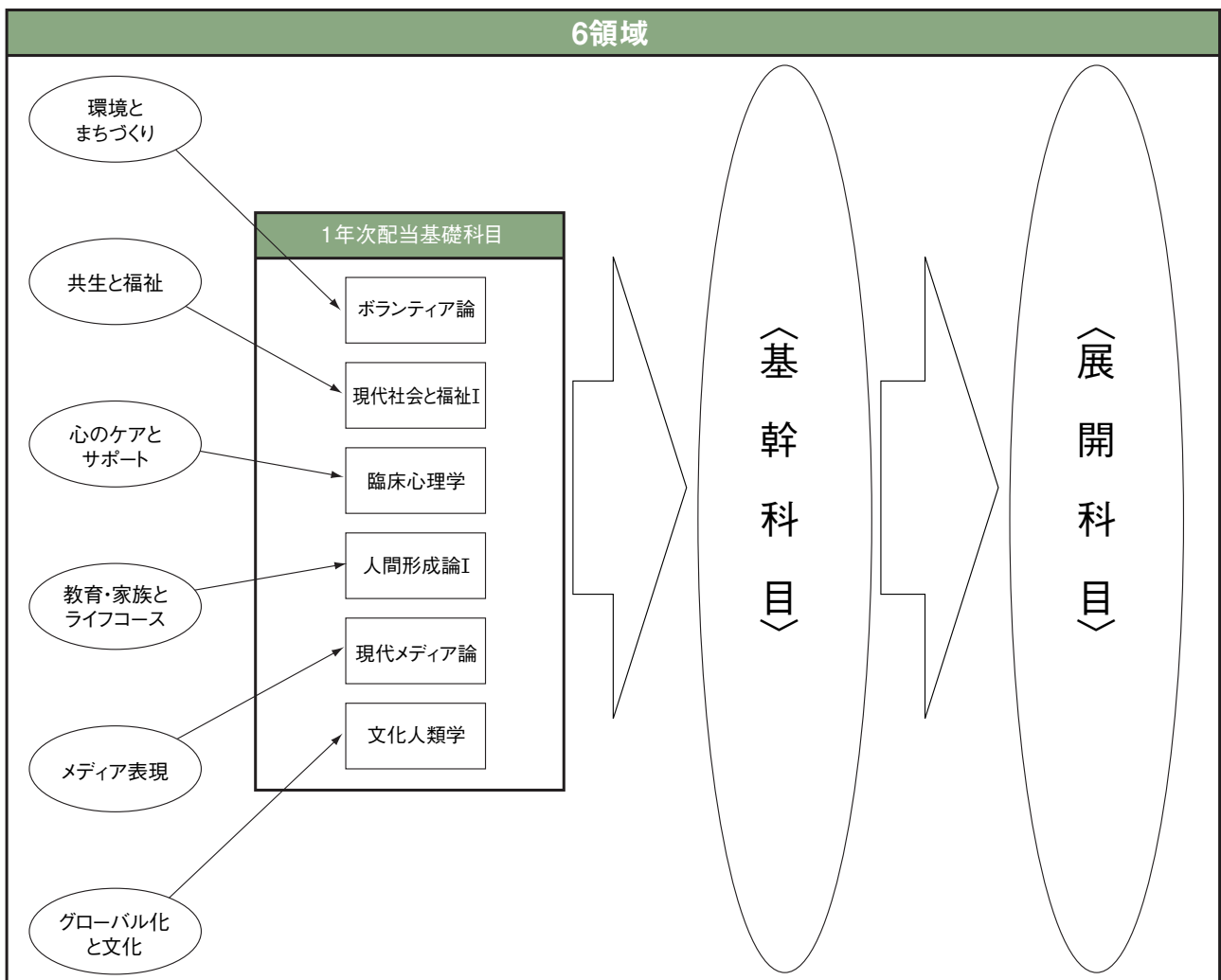
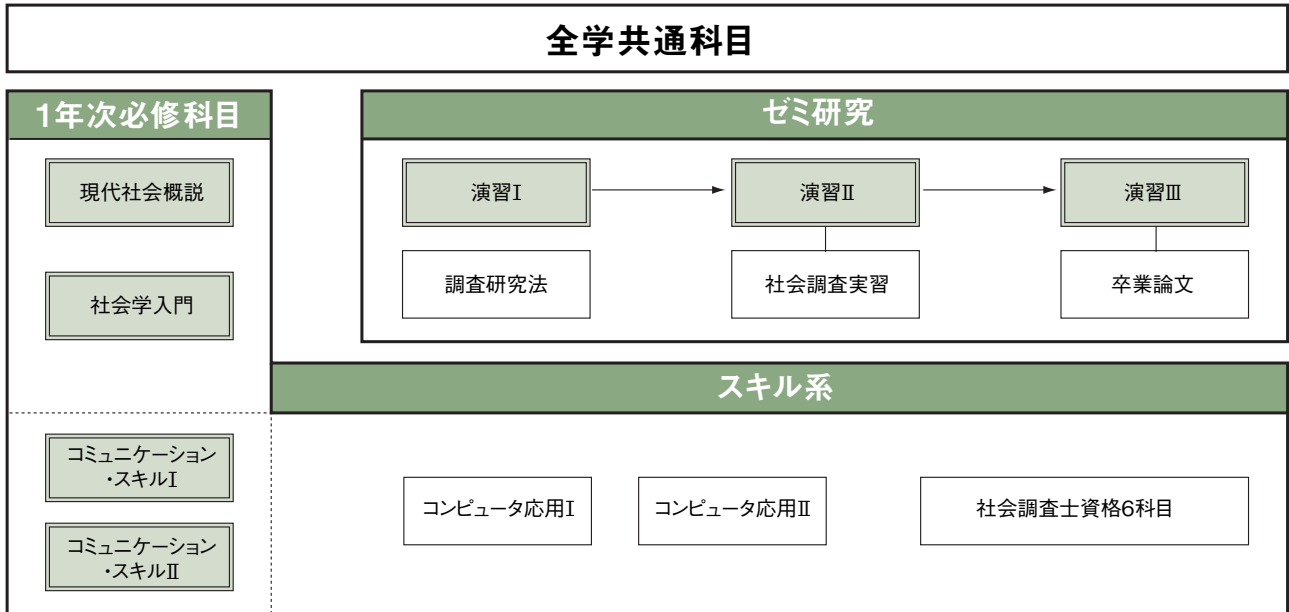
基礎科目は、領域を学ぶ上での文字通り基礎となる科目です。ただし、領域の基礎であると同時に、現代社会に生起する諸問題を理解する上での基礎でもあります。そこで、まず、自分が関心を持っている問題に関して配置されている基礎科目を履修することにより、現代社会に関する基礎を学ぶことが必要です。そこで醸成された基礎力によって、次の段階として、自分の関心領域を選択していくこととなります。各領域には、基幹科目が用意されています。基幹科目の履修によって、さらに各領域の問題の核心に迫っていくこととなります。こうした学びから、さらに専門的な分析力や応用力を養うために展開科目が用意されています。このように段階的な学びを重ねていくことにより、自分の力をゆくりと確実に高めていくことがねらいです。

現代社会学部に学ぶ一人ひとりが、広い視野と行動力、現場での的確な判断力を身につけ、現代社会の諸課題にチャレンジしていくことを期待しています。

カリキュラム構造から見る活躍の舞台



カリキュラム構造の流れ



資格科目

必修科目

学部固有科目について

(2) 6つの領域について

現代社会学部が提示する現代社会に生起する諸問題を示す6領域は、以下の通りです。これらを貫く共通のコンセプトを「市民・公共性・ボランティア」と考えています。現代社会には沢山の解決しなければならない問題があります。しかし、一方で、こうした問題の解決にむけて多くの人や組織が動き出しています。問題があるということばかりを言っているのでは駄目だということも十分解ってきています。そこで、現代社会学部では、こうした現代社会に生起する諸課題の解決に向けて動き出した人々や組織を大切にしていこうということでもあります。

《1. 環境とまちづくり》

地域社会という視点で、環境やまちづくりを構想する分野です。安心して暮らし続けることが可能な社会、持続可能な地球を実現していくための方法を探ることがねらいです。地域分権化が進行する中で、自分が生まれ育った地域、いま自分が住んでいる地域から発信していくことがまさに求められてきています。そうした時代の要請もふまえて、地域から地球を考えるというのがこの領域のねらいです。

《2. 共生と福祉》

地域社会に出て人とのかかわり、働き、家庭を持ち、子どもを生み、育てるといったあたり前な生き方が、あたり前に誰もができるということを大切にしたいと考えています。自分らしく生きられる社会を目指しているということであり、そのための社会的装置をどのように整備していけばよいのかということを考え、実際にやってみようというのがこの領域です。

《3. 教育・家族とライフコース》

生きていく中で出会うさまざまな事柄、子どもの発達と教育や、人間形成や、家族という集団について考える領域です。時代にゆれる社会に隠れた子どもや家族の問題に切り込んでいくというのがこの領域のねらいです。格差社会がもたらす人間形成のゆがみをどのように解決していけばいいのかについて模索していくことがねらいです。

《4. 心のケアとサポート》

心の成り立ち、成長、回復の過程を、社会システムとの関連から理解する領域です。心の問題はとても個人的なものです。しかし、それは社会とのかかわりの中で生まれるものでもあります。だとすれば、個人的な心の問題を社会というフィールドでとらえ直しながら、そのサポートのあり方を社会というフィールドで考えていこうというのがこの領域です。

《5. メディア表現》

マスコミ、メディア社会を学び、表現をプロデュースする力を養う領域です。メディアは、単に情報の伝達手段というだけではなく、新しいものの見方や考え方さらには感動を提供する文化装置として機能しています。メディアを通して自ら表現し、発信することを実践していくのがこの領域のねらいです。

《6. グローバル化と文化》

価値の多様化する現代を生きぬくための世界観を広げる領域です。多様な価値観、世界観の交流を図りながら、その地域に積み重ねられた文化実践を国際的な視点や歴史的な観点から幅広く比較、検討できるような視野と実践力を養いながら、地球市民として創造者として活躍できる力を醸成していくことがこの領域のねらいです。

このように現代社会学部は6つの領域を教育の柱としています。学生がどこかの領域に属するという形態をとらず、学生が自らの学びのコンセプトに従って、領域の科目群から履修科目を選択し、履修プランを作成していくという方式を採っています。

(1) 学部固有科目の履修について

卒業に必要な学部固有科目は、必修科目(20単位)、選択科目(54単位)で合計74単位必要です。
 現代社会学概説(2単位)、社会学入門(2単位)、コミュニケーションスキルI(2単位)、コミュニケーションスキルII(2単位)は、1年生に配置された基礎科目群で、必修科目です。また、演習I(4単位、2年生)、演習II(4単位、3年生)、演習III(4単位、4年生)は、ゼミ研究として必修科目です。こうした科目は、すべて履修しなければ卒業ができません。しかも、演習のように2年生、3年生、4年生と学年ごとに配置されており、積み重ねによりその学習効果をねらいとしているため、履修には十分配慮しなければなりません。
 基幹科目、展開科目はすべて選択科目ですので、54単位の履修をどのような科目の組み合わせによってもかまいません。領域の科目群から履修科目を選択し、自らの履修プランを作成し、履修していくことが可能ですが、先にも述べたように現代社会学部の教育の柱として設定した6領域の学びを理解した上で、主としてどのような領域を自分の学びの中心とするかを明確にした上で、履修する科目の選択をして欲しいと考えます。

(2) 学部固有科目と資格科目

現代社会学部では、社会調査士資格、社会福祉士(国家資格受験資格)をはじめ、多くの資格取得が可能です。こうした資格取得のために必要な科目は、学部固有科目の中に含まれているものと、そうでないものがあります。含まれていないものは、資格科目として独自に設定されており、卒業単位には含まれませんので、履修には十分注意して下さい。

(3) 演習について 「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」 (必修科目)

「ゼミ」もしくは「ゼミナール」とも呼ばれる演習は、教員と学生がコミュニケーションを深めながら、それぞれの教育をテーマに応じて個別研究や共同研究をすすめていく“研究の場”です。また演習は少人数の利点を活かして、教員と学生、あるいは学生同士が相互に発表や質疑・討論を交わっていく“表現の場”でもあります。同時に、講義では得られない親睦の機会も広がり、そうした交友関係を通じて市民的な見識を身につけていく“交流の場”ともなっています。演習の選択の際には安易な情報に流されず、付和雷同することなく、真剣に検討することが望まれます。

演習担当教員

担当教員名		所属	主な担当科目	研究室
芦川 晋	准教授	現代社会学部	コミュニケーションと自己の社会学	5F
伊藤 葉子	准教授	現代社会学部	障害者福祉論	3F
大岡 頼光	准教授	現代社会学部	共同性と福祉の社会学	5F
大友 昌子	教授	現代社会学部	現代社会と福祉I	4F
小木曾 洋司	准教授	現代社会学部	現代社会概説	4F
小澤 浩明	教授	現代社会学部	教育社会学I	5F
小野 征夫	教授	現代社会学部	社会教育論I	5F
加藤 晴明	教授	現代社会学部	現代メディア論	4F
川田 牧人	教授	現代社会学部	エスノグラフィー論I	4F
斉藤 尚文	教授	現代社会学部	文化人類学	5F
志村 明子	教授	現代社会学部	結婚の社会学	4F
鈴木 道子	教授	現代社会学部	伝承文化	4F
成 元哲	准教授	現代社会学部	環境社会学	4F
辻井 正次	教授	現代社会学部	臨床心理学	3F
野口 典子	教授	現代社会学部	高齢者福祉論II	3F
松田 昇	教授	現代社会学部	仕事と自由時間の社会学	5F
村上 隆	教授	現代社会学部	多変量データ解析論	3F

「演習Ⅰ」 選択方法

演習の登録方法は1年生秋学期はじめに【ゼミ選択ガイダンス】にて説明があります(日時など詳細は秋学期開講日にALBOにてお知らせします)。当日配られる教員紹介資料や担当教員による【教員ゼミ(演習Ⅰ)説明会】などを十分参考にして選択して下さい。

「演習Ⅱ・Ⅲ」 「卒業論文(選択科目)」の 履修上の注意

以下の説明に従って履修して下さい。

- ①「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」は必修科目通年4単位です。原則「演習Ⅰ」と同じ所属教員(ゼミ)を春学期に履修登録して下さい。
- ②「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を修得していない学生も「演習Ⅲ」と「卒業論文」を履修することができます。ただし、必ず同時に「演習Ⅰ・Ⅱ」を履修登録しなければなりません。
- ③「演習Ⅲ」を履修登録しないと「卒業論文」を履修登録することはできません(「卒業論文」のみの履修不可)。履修登録は「演習Ⅲ」と同じ所属教員(ゼミ)を選択し春学期に行ってください。履修登録をしていない学生、および「演習Ⅲ」と同じ所属教員を履修登録していない学生は、卒業論文を提出しても単位とならないので注意して下さい。
- ④「卒業論文」は選択科目通年4単位です。この科目は集中講義(時間外)として開講し、所属教員から時間外に論文指導を受けることになります。
- ⑤卒業論文提出日程については11月にALBOにて発表します。提出方法については、学生便覧の該当ページを参照して下さい。提出日程は毎年12月最終講義日1日間、1月上旬の3日間、あわせて4日間を予定しています。

「演習Ⅱ・Ⅲ」の 変更方法

演習は「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」・「卒業論文」まで同じ所属(ゼミ)を継続し研究を深めることが望ましいですが、関心の変化等による変更も可能です。

- ①所属教員(ゼミ)変更希望者は、春学期の【CUBICS履修登録】の際、変更前の現所属教員(ゼミ)を履修登録しなければなりません。
- ②教務課窓口で「所属教員(ゼミ)変更届」を受け取って下さい。
- ③『同変更届』に必要事項を記入し、変更希望する教員から直接受け入れの許可<認印>をもらって下さい。
- ④<認印>のある『同変更届』を教務課窓口へ提出して下さい。
- ⑤所属教員(ゼミ)変更および『同変更届』提出の期限は春学期履修登録修正期間とします。
- ⑥『同変更届』提出後、各自の責任において【CUBICSによる履修登録修正】を行い、すでに登録してある所属教員(ゼミ)を変更して下さい。
- ⑦春学期履修登録修正期間に【CUBICSによる履修登録修正】で所属教員の変更をしなかった学生は、いかなる理由があってもその変更は認められません。

(4)履修者を制限する科目

現代社会学部の学部固有科目の中で一部の科目について、講義内容の特性・教室収容定員から履修希望者の制限をするものがあります。履修者制限をする科目かどうかは、「WEBシラバス」および「学科目時間割表」をよく読み確認して下さい。

主に収容定員制限する教室は、『コンピュータ演習室A・B・C・D』や『AVスタジオ』などがあります。この教室を使用する科目は、履修者数が教室定員オーバーになった場合に制限を実施します。これら以外の教室でも講義内容の特性から履修制限する場合があります。

履修制限の方法は下記の2通りあります。

① コンピュータ抽選

「学科目時間割表」の注で確認してください。履修登録後に抽選を行い、当選した場合はCUBICS上に科目が残ります。この抽選でもれても【CUBICSによる履修修正期間】に空きが出れば履修登録可能です。

- ② 履修者が多く定員オーバーで教室に入室できない、あるいは授業の特性などの理由で履修を制限する場合。このケースでは初回授業で授業担当教員が履修できる者を選択します。この結果、授業を受講不可となった場合は必ず【CUBICSによる履修修正期間】に各自で履修の取消し・変更を行ってください。CUBICS上では「空きがあり」のままです。注意してください。

※「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」の再履修については【CUBICSによる履修修正期間】に履修登録して下さい。この科目については新入生を優先して履修登録を行います。

(5)「海外語学演習」

- ① 本学国際センター企画、主催の海外セミナーに参加、修了することにより、所定の単位を与えられます。セミナー終了後にレポートを提出して下さい。このレポートを含めて認定します(成績上には「N」として表記されます)。
- ② 履修登録不要です。履修制限単位に含めません。
- ③ 4年生においては、夏期海外セミナー(第7セメスター)は認定しますが、春期海外セミナー(第8セメスター)については認定しません。

(6)「多文化共生
フィールドワーク」

文化を異にする人々が共によりよく生きるために活動する団体にボランティアとして加わり、ボランティア活動の記録を作成し合同発表会で報告することで単位として認めます。活動の場は、国内でも海外でも問いません。また、団体の種類は開発でも、福祉でも、まちづくりでも良いです。この科目を通じて、これから大学でなにをどう学ぶかを自分なりにつかんで下さい。

履修登録上の注意

- ① 履修制限単位には含まれないが、履修登録は必要です。
- ② 春学期または秋学期の履修登録の前に、9号館3階にあるフィールド・リサーチ・センターの職員に相談して活動する団体を決めて下さい。
- ③ その団体の概要を記したレポート(2,000字以上)を提出し、授業担当教員から履修の許可を得て下さい。

単位取得上の注意

- ① 活動時間は30時間以上であること。
- ② 活動期間中、随時フィールド・リサーチ・センターに活動記録を提出し、記録の書き方等について、指導を受けて下さい。
- ③ 活動期間終了後、「活動記録」(4,000字以上)と「活動を終えて考えたこと」(1,200字以上)を提出し、授業担当教員の指導に従って修正したうえで、合同報告会で発表して下さい。合同発表会の日時は、ポータルサイト等でお知らせします。

(7)「調査研究法」

2年生に開講される「調査研究法」は、以下のような科目です。

- ① 演習(ゼミ)担当教員が、各演習の教育を進める上で必要と認める場合に開講されるもので、演習と結びついた科目です。但し、演習担当全教員が担当(開講)するものではありません。
- ② 演習のなかで、学生が個別研究を進めるのに必要な調査研究法を身につけるために配置された科目です。講義内容は演習担当教員により異なりますが、調査の方法、実験の方法、文献解読の方法などが主です。
- ③ 他教員の演習を履修していても、履修は可能です。履修を希望する学生は、必ず初回の授業に出席し、教員の指示を受けて下さい。

(8)「社会調査実習」

「社会調査実習」を履修するためには、原則として「社会調査実習」担当教員の「演習I」を履修・修得することが条件となります。詳しくは資格課程『社会調査士』の該当ページで確認して下さい。

(9)「社会調査入門」

この「社会調査入門」は社会調査士の資格科目で3人の教員が同一の内容で行います。初回の授業のみ合同で431教室にて授業を行います。履修希望者は授業担当教員を決めるので必ず初回の授業に出席して下さい。再履修を希望する学生も同様です(初回の授業に参加できなかった学生は理由を問わず履修を認めることができませんのでご注意下さい)。2回目以降は授業担当教員ごとに3教室に分散して受講することになります。

履修登録は初回の授業の出席者のみ教務課で入力します。CUBICS履修修正期間に登録されている事を各自で確認して下さい。事前のCUBICS履修登録およびCUBICS履修修正もできませんので注意して下さい(登録後の変更はできません)。

注意：履修制限単位を超えて履修することはできません。必ず履修できますので履修登録を希望する学生は履修登録制限単位を超えないよう、2単位空けて最初の登録をして下さい。

(10)「インターンシップ」

この科目はキャリアセンターが実施しているインターンシップ研修にそって展開します。キャリアセンターを通じて実習を行ったものに限り単位を認定します。2年生の3月末頃に【インターンシップガイダンス】を実施しますのでキャリアセンターで確認して下さい。

- ①この科目は3年生のみ履修できます。再履修はできません。
- ②この科目は認定科目なので、成績表の表記は「N」となります。
- ③「インターンシップ」は学部固有科目共通コースの選択科目、2単位科目であるが履修制限単位には含みません。
- ④この科目の内容は、原則2週間以上の実習とキャリアセンターが実施する事前研修および事後研修とします。
- ⑤この科目履修希望者は、2年生の3月末にキャリアセンターが募集する【インターンシップガイダンス】に必ず参加し、キャリアセンターにインターンシップ応募書類を提出して下さい。履修登録は不要です。
- ⑥実習期間は基本的に夏休み中(7～8月)とします。
- ⑦インターンシップの履修を希望してキャリアセンターに参加申し込みをしても、受け入れ側とのマッチングが成立しなければ実習することができないこともあります。

(11)「海外留学科目」

- ① ISEP 加盟大学、および中京大学海外交流協定大学へ交換留学生として選抜派遣された学生が留学先大学で取得した単位については、原則として学部固有科目にある科目に読み替えてこれを認定します(成績表上には「N」として認定されます)。
- ②上記読み替えがきかない科目の中で、現代社会学部教授会が認めた科目については、学部固有科目の「海外留学科目」として認定します。
- ③「海外留学科目」として認定できる単位数は16単位までとし、2単位、4単位などの分割認定も認めます。

(12) 隔年開講科目

隔年開講科目とは原則、今年度開講されれば、来年度休講となる科目です。

《対象科目》 市民活動各論I
市民活動各論II

(13) 再試験

再試験については下記の通りです。

《対象科目》 なし。

※学部固有科目の再試験は全科目実施しません。全学共通科目については該当ページで確認して下さい。

(14) 卒業論文の提出について

《提出日時・提出先》

提出日	提出時間	提出場所
ALBO で11月に連絡します。提出日は、基本的に4日間(12月最終講義日1日、1月上旬3日間)です。	9:00~16:30	豊田教務課窓口

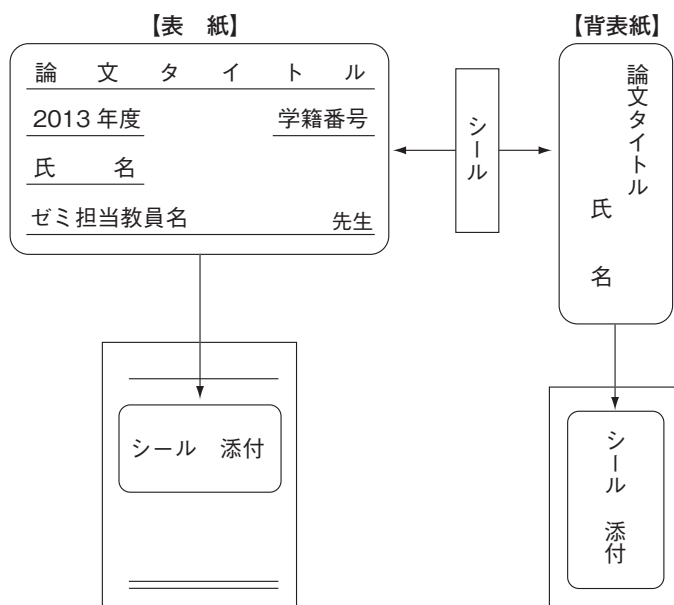
- 【注】①卒業論文提出日は12月に1日間、1月上旬3日間の計4日間を設定しています。
 ②卒業論文の提出は時間厳守であり、いかなる理由によるものであれ『受付期間外』および『遅刻』の提出は絶対に認められません。
 ③論文提出は、教務課窓口にある『卒業論文受付証』に必要事項を記入、卒業論文と一緒に提出し、窓口で『受付証控』をもらって完了とします。締め切り時間までにこの作業を済ませて下さい。
 ④提出最終日は予備日と考え、前日までに論文を提出するよう心がけて下さい。また、締め切り時間直前は、受付窓口が混雑する場合がありますので、あわてないよう余裕を持って提出して下さい。
 ⑤提出最終日は、公正な締め切り時間の指示をするため、現代社会学部教員が窓口で立ち会います。

【提出形式等】

▼卒業論文の作成方法、書き方など詳細については、必ずゼミ担当教員の指導を受けて下さい。

- ①提出形式 表紙+論文要旨(800字程度)+目次+本文(400字×50枚程度)+注
 - ②提出数 2部(オリジナル版とコピー版各1部)
 - ③表紙および論文の書き方
 - (1)表紙は現代社会学部指定のものとし(生協購買部で販売しています)。
 - (2)表紙は、表にシールを張り、
 1. 論文タイトル 2. 該当年度 3. 学籍番号 4. 氏名 5. ゼミ担当教員名を記入して下さい。
 背表紙は、1. 論文タイトル 2. 氏名 を記入して下さい。
- [下記図を参照して下さい]
- (3)論文は、ワープロ書き、手書き、どちらでも可。ワープロ書きの場合以下の字数で作成して下さい。
 - B5版…1ページ800字程度
 - A4版…1ページ1200字程度
 - (4)手書きの場合、B5版・A4版ともに400字詰原稿用紙を使用し、サインペン・ボールペンで記入して下さい。
 - (5)縦書き、横書きどちらでも可。
- ④共同執筆の場合は、執筆分担を明らかにして下さい。
 - ⑤卒業論文提出は、原則、本人が直接教務課窓口へ提出して下さい。やむをえず代理人による提出を希望する場合は、ゼミ担当教員のみ代理人となることが出来ます(代理人提出の場合も提出日および時間厳守)。

【卒業論文】表紙・背表紙作成の記入例



(1) 全学開放科目

本学では、自分の所属学部以外の学部が開講している学部固有科目を履修・修得することができます。履修にあたっては履修登録制限単位数に含まれます。修得した科目は、下記の表に従い卒業所要単位に含まれます。

(2) 対象科目

全学開放科目時間割表で確認して下さい。

(3) 履修方法

全学開放科目の履修希望者は以下の手順で履修の申し込みを行って下さい。

- ①教務課窓口で「全学開放科目時間割表」を受け取り、履修希望科目を決定する。
 - ②教務課窓口で「全学開放科目申込カード」を受け取り、必要事項を記入する。
 - ③履修を希望するクラスの初回の授業に出席し、授業担当教員から履修の許可を得る。
(申込カードに授業担当教員の承諾サインをもらい「担当教員控」を授業担当教員に渡す)
 - ④申込カードの「教務課控」を切り離して教務課に提出する。
- ※ CUBICS 履修登録、CUBICS 履修登録修正はできません。
- ⑤申込期間は ALBO で案内します。

(4) 単位認定

卒業所要単位としては下表のとおり認定されます。

学 部	認 定 区 分	単 位 数
文	フロント単位	4単位 (4単位を超えて修得した単位は 自由単位となります)
国 際 英 語	学部固有選択単位	
国 際 教 養		
心 理		
現 代 社 会		
法		
総 合 政 策		
経 済		
経 営		
情 報 理 工		
体 育		

(5) 注意事項

- ①履修登録制限単位に含まれます。
- ②履修を希望する科目の開講学部を確認して下さい。
- ③教室変更・試験日程等の連絡事項は、ALBO またはホームページを確認して下さい。
- ④開講キャンパス(名古屋・豊田)が異なる学部の科目も履修できますが、移動時間(約1時間)を考慮して履修計画を立てて下さい。
- ⑤全学開放科目の履修者に対しては、再試験を実施しません。
- ⑥休講・補講等は、ALBO で確認して下さい。

- (1) 愛知県単位互換制度** 愛知県内全ての4年制大学が加盟する愛知県長懇話会において「単位互換に関する包括協定」として締結されたものです。加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される様々な科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。
- (2) 単位互換** 愛知県単位互換制度に所属した大学間で公開する全ての科目を大学を超えて受講し、そこで修得した単位が所属する大学の単位として認められます。
- (3) 受講可能科目** 愛知県単位互換制度に所属した大学の教員から成るコーディネート科目、「大学コンソーシアムせと」の開講科目、単位互換制度所属大学間で公開する講義です。
- (4) 単位互換履修生 (特別聴講学生)** 愛知県単位互換制度に所属した大学間で公開する講義を受講することのできる学生のことです。
- (5) 科目開設大学** 愛知県単位互換制度に所属した大学で開講科目を公開した大学のことです。
- (6) 出願手続き** 教務課窓口で当該年度単位互換履修生募集要項を参照し、希望する科目等を所定の出願票(1科目につき1枚)に必要な事項を記入して、所定の期間までに教務課窓口に提出して下さい。
提出期間は、4月上旬(詳細はALBOまたはホームページで案内)です。受講可能対象学年は、1～3年生です。年間履修制限単位数は、4単位です。履修登録制限単位に含みません。
大学によっては募集定員や、出願票に記入された「志望動機」に基づいて受講者の選考が行われる場合があります。受講料は無料です。ただし、科目によっては実験・実習等に必要の実費について必要となる場合があります。また、他大学の科目と本学開講科目名(既に修得の場合)が同一の場合には履修をしても単位認定できないことがあります。
- (7) 履修手続き** 出願者の受講の可否は、4月下旬に所属大学を通じてその結果が学生本人に通知されます。履修許可の通知を受けた学生は、科目開設大学の指示に従って所定の履修手続きを行うことになります。また、履修登録日程の関係上、科目開設大学において履修者決定までの間、その授業の仮受講が認められていますので、出願票のC票(本人控)を携帯し、仮の受講票とすることができます。
- (8) 身分について** 履修手続きを完了した学生には、科目開設大学で「単位互換履修生」または「特別聴講学生」となります。科目開設大学によっては身分証明書が発行されます。履修許可を受けた科目を履修し、当該科目の試験に合格すれば単位認定を受けることができます。単位互換履修生(特別聴講生)は、科目開設大学の施設(図書館等)を利用することができますが、科目開設大学のルールを良く理解しそれに従った行動をして下さい。
- (9) 単位互換履修生 (特別聴講学生) となった学生への連絡** 単位互換履修生となっている大学の休講等の連絡については、ALBOの「お知らせ」でお知らせします。
- (10) 単位の認定** 卒業所要単位として下記のとおり認定します。成績通知は学年末に教務課にて通知します(時期はALBOにて連絡)。成績評価は、認定「N」とします。なお、再試験は実施しません。

学 部	単 位	認定区分
文学部	12単位	フロート単位
国際英語学部	6単位	
国際教養学部	4単位	
心理学部	4単位	
現代社会学部	6単位	
法学部	4単位	全学共通選択単位
総合政策学部	4単位	
経済学部	4単位	
経営学部	4単位	
情報理工学部	4単位	
体育学部	12単位	フロート単位